

現存最古級の塩化ビニル被覆電線

登録番号	第004号
名称（型式等）	塩化ビニル被覆電線・ケーブル見本
所在地	千葉県市原市八幡海岸通6
	古河電気工業株式会社 千葉事業所
製造年	1950年（昭和25年）～1955年（昭和30年）頃

選定理由

古河電気工業株式会社は1949年（昭和24年）に、わが国で最初に塩化ビニル電線被覆機をアメリカから購入して塩化ビニル被覆電線の製造を開始した。電線には、被覆材（覆う材料）がなく導体がむき出しになり空気による空間が絶縁体となる裸電線と、導体が絶縁体で被覆されている絶縁電線があるが、絶縁電線はどんな絶縁体を被覆材として使用するかによって特性が変わってくる。塩化ビニル樹脂を被覆材とした電線はゴムのものと比較して、①容易に成形加工ができる、②絶縁性能・強度・柔軟性・耐熱性ともに優れている、③屋内配線にも安心して使用できる、④耐油性・耐薬品性・耐水性など環境に対する耐性に優れている、⑤着色も鮮明であり識別しやすい等の大きな特徴があり、その結果広く普及することとなった。



左の写真は当時のユーザーへの説明用に用いられた電線・ケーブル見本である。折りたたんで持ち運びができる箱型になっている。

全部で28種類の電線・ケーブル見本が収められている。そのうち赤い○で囲んだ10種類のものが塩化ビニルを被覆材として使用した電線である。

現在、私たちのまわりに広く普及している塩化ビニル被覆電線の初期のものを知る資料として、とても貴重な見本である。

- 参考資料 1) 国立科学博物館重要科学技術史資料（未来技術遺産）登録番号 第57号（2010）
2) 古河電気工業株式会社提供資料